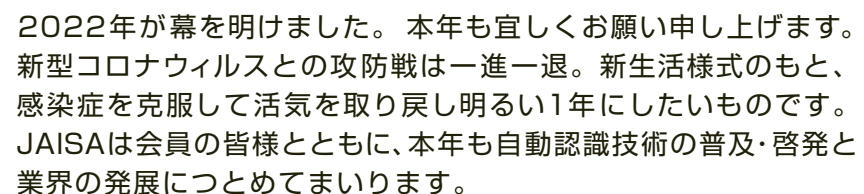




— SDGsとDXに貢献 —



2022年 新年のご挨拶

P1

2022年 新春賀詞交歓会

P2~4

未来のAUTO-IDプロジェクト

P5~9

第19回自動認識総合展 大阪 ご案内

P10

JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

セミナー 講演時間

バーコード 105分	RFID 150分	生体認証 105分
---------------	--------------	--------------

種類や特徴、市場動向、実機体験、
どこでどのように使われているの？
導入前の課題と対策、標準化、ほか

お客様の要望により、講師派遣
またはオンラインで個別に「自動
認識の基礎知識セミナー」を実施
いたします。バーコード、RFID、
バイオメトリクスのそれぞれを1講座
として、2講座以上でお申し込み
ください。

■ 開催日: 2022年3月11日(金) ■ 場所: 当協会会議室10:00～17:30 ■ 定員: 会場/20名、オンライン/20名

受講料(税込): 一般22.000円/人 会員11.000円/人 〈講師派遣によるセミナーを随時受付。人材教育・研修に最適。〉

*新型コロナウイルス感染症対策を充分に行い、参加者の安全に配慮して実施いたします。

一般社団法人 日本自動認識システム協会

お問い合わせ

TEL: 03-5825-6651 Mail: jaisa_otoiawase@jaisa.or.jp



2022年 新年のご挨拶

新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
皆様におかれましては、平素より当協会の事業活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国内経済は一昨年から続く新型コロナウイルス感染症による打撃から徐々に回復に向かいつつありましたが、対面型サービス業はじめ回復が待たれる業種も多く、依然として厳しい状況が続きました。一方でコロナ禍においての明るい話題として夏に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中の人々に感動を届けられたことが挙げられます。アスリートの活躍はもとより、大会関係者や医療従事者、ボランティアの方々の献身的な活動も広く紹介されました。またオリンピックを機に導入された移動最適システムや水素エネルギーシステム、感染症サーベイランス強化など、安心・安全で、環境に配慮した最新テクノロジーを広く海外にアピールすることができました。さらに競技運営面では、記録測定や会場セキュリティはじめ、さまざまな分野に自動認識技術が活用されました。

新年早々新型変異株が急速に拡大しており、新型コロナウイルスの鎮静化が見えない不透明な状況が当面続くことが想定されます。しかしながら、コロナ禍で定着した新しい生活様式を通じて、ビジネススタイルの変革や新たなビジネスモデルが次々に誕生しており、本年はこの変革が加速することでしょう。



一般社団法人日本自動認識システム協会
代表理事会長
小瀧 龍太郎

自動認識技術はこれまでも非接触化、省力化を実現し、そしてAI、ロボット、自動走行など新技術と融合してデジタル化を促進し、経済の発展と社会生活の利便性向上に貢献してきました。そして社会課題である「SDGs」実現に向けても自動認識技術の活用が期待されております。今後、新たな日常とともに加速化するDX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みにより、システムやビジネス構造の大きな変革も想定されますが、自動認識技術はDXの基盤技術の一つとしてその変革を支え、進化させる可能性を持つものと確信しております。

本年は当協会の活動として、IT人材育成のための自動認識に関する各種セミナーと自動認識技術者資格認定講習・試験の実施、自動認識市場の拡大と活性化に向けた展示会の開催、研究開発センターの部会・プロジェクト活動をさらに充実させて、会員企業の皆様とともに総合的な自動認識技術の活用促進をより広範囲に進めてまいります。また、業界関連団体や関連省庁との連携をはかり、経済の発展に貢献してまいります。

2022年が皆様に実り多き年でありますよう、そして益々のご発展を祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

賀詞交歓会をオンラインで開催

一般社団法人日本自動認識システム協会（JAISA）は2022年1月13日、「2022年新春賀詞交歓会」を昨年同様にオンラインで開催し、来賓の経済産業省、関連・業界団体の皆様はじめ、会員企業、報道関係など、約120名の参加をいただきました。

賀詞交歓会の開催にあたりJAISA代表理事会長の小瀧龍太郎は、新年の挨拶とともに年頭所感で、新たな日常を支える自動認識技術の重要性を語り、本年も会員の皆様と関係省庁・関連団体と協調して自動認識技術の普及啓発、業界の発展に取り組む決意を表明しました。



新年の挨拶 JAISA小瀧会長

続いて、主賓の経済産業省製造産業局産業機械課課長安田篤様の講演がありました。安田課長ははじめに、本年は社会生活の中で非接触や非対面への取り組みがますます加速するとして、この状況下で「明るい年、素晴らしい経済を築くために、皆様とともに一体となった取り組みを進めてまいりたい」と挨拶されました。

講演では、最近の政策動向について、エネルギー基本計画の改定はじめ7項目について、それらの政策のポイントを、カーボンニュートラルとDX、税制改正を中心に解説していただきました。

最近の政策動向について 講演

<講演のアジェンダ>

1. エネルギー基本計画の改定
2. 省エネ法改正の経緯
3. 再エネ価値取引市場
4. COP26の結果概要
5. 製造業のダイナミック・ケイパビリティ強化
6. 令和3年度補正予算中小企業向け支援策
7. 経済産業関係税制改正のポイント



経済産業省 製造産業局
産業機械課 課長
安田 篤 様

カーボンニュートラルについて

2030年に向けた政策対応のポイント（基本方針）
安全性を前提とした上で、エネルギーの安定供給を第一とし、経済効率性の向上による低コストでのエネルギー供給を実現し、環境への適合をはかるS+3E実現のため最大限の取り組みを行う。

2050年カーボンニュートラル実現に向けた課題と対応
温室効果ガス排出の8割以上を占めるエネルギー分野の取り組みが重要であり、水素・アンモニア発電やCCUS/カーボンリサイクルによる炭素貯蔵・再利用を前提とした火力発電などのイノベーションを追求する。

先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金
工場・事業場で実施されるエネルギー消費効率の高い設備への更新などを支援する。

(A) 先進事業
高い技術力や省エネ性能を有しており、今後、導入ポテンシャルの拡大等が見込める先進的な省エネ設備等の導入を行う省エネ投資について、重点的に支援を行う。

(B) オーダーメイド型事業
個別設計が必要な特注設備等の導入を含む設備更新やプロセス改修等を行う省エネ取り組みに対して支援を行う。

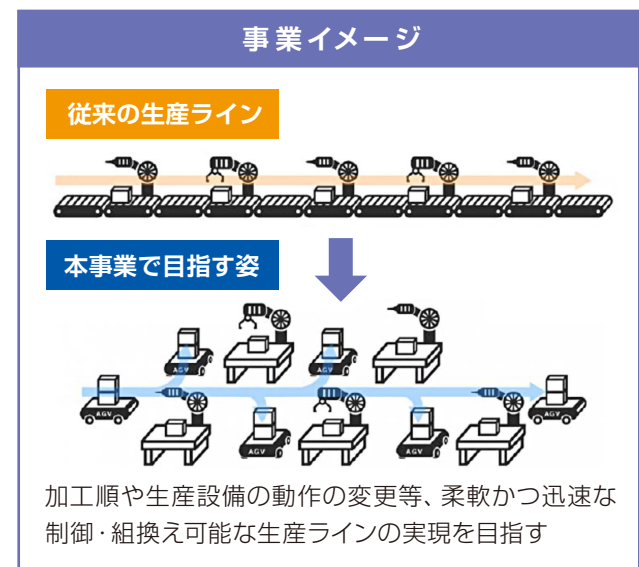
(C) 指定設備導入事業
省エネ性能の高い特定のユーティリティ設備、生産設備等への更新を支援する。

(D) エネマネ事業
エネマネ事業者と共同で作成した計画に基づくEMS制御や高効率設備の導入、運用改善を行うより効率的・効果的な省エネ取り組みについて支援を行う。

事業の成果目標
令和3年から令和12年までの10年間の事業であり、令和12年度までに本事業を含む省エネ設備投資の更なる促進により、原油換算で2,155万klの削減に寄与する。

DXについて

製造業のダイナミック・ケイパビリティ強化
5G等無線通信技術の本格活用により生産ラインの柔軟かつ迅速な制御・組換えを実現することが、ダイナミック・ケイパビリティ（企業変革力）の強化や省エネ促進に直結する。



- 想定される研究開発課題の例
- 異なる生産設備等を一括で最適に制御するプログラム
 - クラウドからの制御指示を生産設備等に正確かつ迅速に伝達するための変換技術
 - 複数の工場を跨ぐ最適な生産計画と製造現場の最適な制御をすり合わせるための変換技術
 - 生産ラインの組換えに対応しつつ正確かつ迅速な品質管理を行うためのAI開発
- *当日の講演資料から一部転機しました。

事業の成果目標

本事業による研究開発成果の実用化を通じて、令和12年度において年間413万t-CO2の排出削減を目指す。

令和3年度 補正予算中小企業向け支援策について

- 事業復活支援金
- 法人は上限最大250万円を給付
 - 個人事業主は上限最大50万円を給付
- 資金繰り支援
- 政府系金融機関の実質無利子・無担保融資を年度末まで実施
 - 資本金劣後ローンを来年度も実施
 - 伴走支援型特別保証を上限引上げのうえ、来年度も実施
- ものづくり・商業・サービス補助金
- 最大2,000万円の設備投資補助
- 持続化補助金
- 最大200万円の販路開拓等補助
- IT導入補助金
- 最大350万円のITツール導入補助（別途PC等の購入も支援）
- 事業継承・引継ぎ補助金
- 事業継承、引継ぎに係る取り組みを最大600万円補助

- 事業再構築補助金
- 業況が厳しい事業者や事業再生に取り組む事業者向けの特別枠を創設
 - グリーン分野での取り組みを重点的に支援する特別枠を創設

上記支援策のほか、経済産業関係税制改正では、大企業及び中小企業向けの賃上げ促進税制について説明をいただき、安田課長の講演が終了しました。

2022年 GS1自動認識標準の動向・利用の展望

当日は関連団体の来賓として、GS1 Japan（一般社団法人流通システム開発センター）様、一般社団法人日本産業車両協会様、一般社団法人 ID認証技術推進協議会様が賀詞交歓会に参加されました。

関連団体の来賓から、GS1 Japan専務理事 杉谷晴久様による講演が行われました。（以下、講演の要旨）

医薬品・医療機器

2019年12月に公布された「改正薬機法」により、21年8月から医療用医薬品、医療機器等の添付文書の電子化が始まった。専用アプリ「添文ナビ」で製品上のGS1バーコードを読み取り、ネット上の添付文書の閲覧が可能となった。22年12月からはバーコード表示が義務化される。医療の安全の面でもGS1バーコードの活用が期待されている。

グロサリー（食品・日用雑貨などの分野）

物流の標準化、効率化に役立つGS1標準シンボルやID（識別コード）に注目が集まっている。ケース単位に2次元シンボル（GS1 QRコード）を表示し、日付やロット情報を記録、管理し検品業務の効率化をはかる動きがあり、また、物流関連に以下のGS1識別コードの利用が検討されている。

- ・GTIN (Global Trade Item Number)
商品を識別するGTINは国内ではJANコード (Japanese Article Number) とも呼ばれている。消費者購入単位には13桁あるいは8桁の、またケース単位には14桁のGTINが主に利用されている。
- ・GLN (Global Location Number)
企業や事業部門、場所などの識別コード
GLNは取引における「相手先」や「物理的な場所」などを識別し、EDI等のデータ交換で活用されている。

- ・SSCC (Serial Shipping Container Code)
輸送梱包単位の識別コード
パレットやコンテナ、ケース等に積載・梱包された、「運ぶ/届ける」単位を個々に識別し、ASNなどEDIと併せて利用する。
- ・GRAI (Global Returnable Asset Identifier)
カゴ台車や折りたたみコンテナなどの、企業間で繰り返し利用する物流資材その他の資産を管理するためのコード。
- ・GIAI (Global Individual Asset Identifier)
各種のレンタル・リース品などの資産（例：医療器材や手術器具、物流においては運搬車両など）で、個々を識別し、出し入れやメンテナンスの記録などの管理を必要とする資産を識別するコード。

2次元シンボルをPOSで活用する国際的な動きがある。GTINに加え属性情報を2次元シンボルに表示し、対消費者への情報発信や企業の業務に活用しようというもので、一部の国では生鮮食品などへの導入が始まっている。

杉谷様は講演の最後に「EPC/RFID関連標準のアップデート」としてUHF帯RFIDにおけるGS1識別コードのエンコード方式(EPC)の再検討を行ない、拡大するRFID活用に向けて、EPCをより使いやすくする指針を公表しました。

新規会員企業紹介

賀詞交歓会は来賓の講演に続き、2021年にJAISAに入会された企業を紹介し、各社より新年の挨拶をいただきました。

新規会員企業	ご挨拶
株式会社IHI	産業システム・汎用機械領域 事業推進部 山崎 秀作 様
旭化成株式会社	マーケティング&イノベーション本部 事業・企画統括部 小松 和磨 様
株式会社エイボス	――
株式会社SGST	――
山京インテック株式会社	営業本部 システム営業部 小野 史生 様
ジック株式会社	イントラロジスティクス営業部 及びプロジェクトマネジメント部 小坂 鉄哉 様
システムギア株式会社	営業本部 商品企画部 池田 光繁 様
株式会社UniTag	営業部 高石 将熙 様

JAISA 2022年の事業活動について

賀詞交歓会第一部の最後に、JAISA代表理事副会長 塩川恵一から2022年の事業活動について説明を行いました。特に自動認識普及発展のため「会員サービスの向上」と「ウィズコロナ時代の堅実な事業経営」を柱に、オンライン併用による地域に依存しないサービスの提供、自動認識技術による新生活様式の具現化と提言を行う、としました。

普及啓発活動	自動認識総合展／展示会セミナー 2022年2月 大阪展 2022年9月 東京展
	自動認識システム大賞 3月 募集開始
人材育成活動	未来のAUTO-IDプロジェクト 新企画委員会による活性化 プロジェクトの発案による普及啓発イノベーション
	情報発信 会報誌「会報JAISA」季刊発行 自動認識技術情報誌「JAISA NOW」発行 メールマガジンの送信
調査・研究活動	ビジネスセミナー開催 第1回「期待高まるサステナブル経営をどう進めるか」1月 第2回「画像処理と自動認識の最前線」3月
	自動認識技術者資格認定 自動認識基本技術者資格認定講習・試験 オンラインで受験機会拡大と受験者利便性向上 年6回（東京、大阪、他地域）実施 RFID専門技術者資格認定講習・試験 年1回実施
調査・研究活動	自動認識の基礎知識セミナー（集合形式及びオンライン） 年5回開催（出張形式は随時開催）
	自動認識システム市場動向調査 国内企業出荷実績及び出荷予測の調査・分析
調査・研究活動	研究開発活動 標準化活動の推進 市場経済活性化の新たな課題への取り組み
	部会・プロジェクト活動 部会：バーコード、RFID、バイオメトリクス、システム プロジェクト：医療自動認識、画像認識

第二部はZoomのブレイクアウト機能でオンライン談話室を設置し、会長・副会長室、来賓、理事・監事、会員企業様、部会・プロジェクトなどの談話室に参加者が自由に入退室を行い、新年の挨拶から市場動向や打ち解けた話まで、コロナ禍で疎遠になった方々との旧交を温める場面もありました。



オンラインで会長室を訪れた方々

歓談後、JAISA専務理事 古村浩志から皆様に参加御礼を申し上げ、本年も一致協力して自動認識技術の活用促進をより広範囲にすすめ、関連団体や関係省庁と連携をはかり、経済の発展に貢献していく旨、一丁締めを行い、本年の賀詞交歓会の中締めとなりました。

2019年春に自動認識市場拡大のための情報発信の取り組みとして「未来のAUTO-IDプロジェクト」が発足しました。会員企業に参加いただく企画委員会を中心に活動を行っています。本号では「未来のAUTO-IDプロジェクト」の活動をご紹介します。

プロジェクトの目的

「未来のAUTO-IDプロジェクト」の目的は、＜自動認識技術に関係する事業者（ユーザー・メーカー・Sler）に対して、自動認識技術の活用事例の具体化を体感できる展示を提供することで、自動認識システムの認知度を向上させ、自動認識市場の発展・拡大に寄与する＞としています。これまで、2019年から2021年にかけて「自動認識総合展」及び「自動認識総合展 大阪」において、JAISAテーマ展示として会員企業様の自動認識ソリューションを＜未来をつなぐAUTO-ID＞として展示発表しました。

新企画委員の活動

2021年7月から企画委員会に新たに多彩なメンバーが加わり、活動を継続しています。新企画委員は2021年7月以降毎月1回、4つのグループに分かれテーマを決めてプロジェクトの目的に沿ったグループ活動を展開しています。

<企画委員会の活動概要>

2021年7月度委員会

新企画委員の自己紹介、プロジェクトのオリエンテーション

8月度委員会

企画委員全員が「自動認識の未来像」をテーマに、企画案をプレゼンテーション

9月度委員会

企画委員の「自動認識の未来像」の発表内容を体系的に4グループに分割し、新たなテーマでグループ活動を実施

<グループテーマ>

Group1	新たな開発を目指す
Group2	「場」を作る
Group3	新しい情報発信
Group4	次世代育成

12月度委員会

グループごとにテーマに基づいた企画案のプレゼンテーションを実施

プロジェクト体制

企画委員会

委員長



紀伊 智顕
JAISA RFID部会長

副委員長

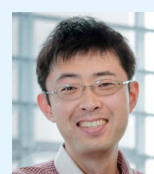


大澤 秀次
JAISAシステム部会長

学術委員



三枝 仁
慶應義塾大学 教授



矢谷 浩司
東京大学大学院 准教授

幹事会



西田 浩一
JAISA 理事



春山 安成
JAISA 理事



古村 浩志
JAISA専務理事

紀伊 智顕
JAISA
RFID部会長



武藤 健
JAISA常務理事
事務局長



森本 恭弘
JAISA研究開発
センター長

新企画委員

NECプラットフォームズ株式会社
オカベマーケティングシステム株式会社
サトーホールディングス株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社デンソーウェーブ
東芝テック株式会社
トーヨーカネツ株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社 日立製作所
株式会社リコー

* 社名五十音順

グループ活動の成果

2021年12月度の企画委員会で発表された各グループの企画案（要旨）をご紹介します。当日は、3か月間のグループ活動で討議された、ユニークで斬新な企画案が披露されました。

未来のAUTO-IDプロジェクト 委員会グループ発表

Group1

<テーマ>
新たな開発を目指す



菊池 正博さん
リーダー
オカベマーケティング
システム



柳下 典男さん
サブリーダー
トーヨーカネツ



三枝 仁 教授
慶應義塾大学



岸本 尚昭さん
リコー



柳田 善衛さん
凸版印刷

〈事務局〉



紀伊 智顕さん
JAISA
RFID部会長

企画タイトル：JAISAと「つなぐ」未来の構築

企画概要

この企画は3フェーズに分けて「つながる」をスモールスタートから実践し、縦横の広い範囲でユニーク附番のプラットフォームを構築する。「つなぐ」プラットフォームは既存のユニークNoをWeb上で附番でき各社につなげる仕組みを構築する。

フェーズ1

キャンプ場などで子供の体調管理と自動認識の楽しさを無償で提供。

フェーズ2

高地登山、雪山などの環境下で＜見守る＞安心を提供

フェーズ3

社会環境の変化を読み取り、動態管理からフードロスの削減情報に繋げる仕組み



<リーダーとしてグループ活動を振り返って>

菊池 正博 リーダー

グループ1のリーダーを拝命いたしました時は漠然とした不安も正直ございました。しかしグループの先輩方の今までの多様なご経験を参考に、今求められている「バーコードという概念のない人々」側に私がグループ内で一番近いことが逆に良かったと振り返えることができます。「自動認識」を意識していない方々向けには、冒頭から技術的アプローチの提案では受け入れられにくいと想定できました。対応として先輩方の深い技術的ノウハウを上手にサブリーダーが起点となり提案案件に纏めていただきながら、実現可能な大枠から深掘していく事が発表までに出来たと思います。

サブリーダーが主体となり目的の方向性確定と各自の落とし込み案の作成、グループ内発表とフラットなディスカッションから、メンバーが受け持つ考察を落とし込み、発表までに対面ではないウェブ上で行う意思疎通の難しさの中に「相互扶助」となるべく目標と成果の実現に向けた皆さんの一体感は、自動認識に深く関わってこられた大人の成せる有意義な時間だったと心から感じております。

自分の役割を発表者として集中させていただけました事、ノウハウやアイデア、今までの多彩なご経験によるサポートなど、グループの皆様には本当に感謝しかございません。このような機会を頂き誠に有難うございました。



Group2

<テーマ>
「場」をつくる



山本 祐司さん
リーダー
凸版印刷



中野 茂さん
サブリーダー
大日本印刷



依田 卓也さん
デンソーウェーブ



甲田 勇輝さん
大日本印刷



古村 浩志さん
JAISA
専務理事

〈事務局〉

企画タイトル：出前教室・オンライン授業

企画概要

JAISA会員企業が、自動認識技術や事例等の紹介を若い世代を対象として、約1時間程度でデモや動画を交えながら出前授業やオンライン形式の授業を実施する。参加希望はホームページで申込受付を行う。

<目的>

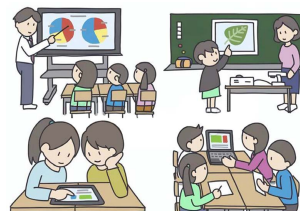
自動認識技術が社会で広く利用されていることを若い世代に広め、興味を持ってもらい、授業を通じて自動認識技術の重要性喚起、自動認識技術の次世代を担う将来のエンジニアや関連業界へ就職する希望者を増やす。

<授業内容>

- ① バーコード・RFIDが読める～読めなくなる実験
- ② セルフレジ
- ③ 画面上のQRを起点としたWebでの施策
- ④ RFIDの検索機能を利用したゲーム（宝さがし）
- ⑤ RFIDで商品読み取り
- ⑥ 登録した顔画像を利用した認識
- ⑦ 画像認識を利用したピッキング
- ⑧ グループワーク

<授業概要>

対象者	授業形態	授業形態	主なテーマ
小学生 (高学年)	総合的な学習 出張/オンライン	自動認識技術が身近で社会に役立っていることを知ってもらう	SGDs
中学生	総合的な学習 出張/オンライン	RFID関連技術とソリューションの理解を深め、自動認識業界に興味を持ってもらう	SGDs、IoT
高校生 (情報処理系)	総合的な学習 出張/オンライン	自動認識技術初級レベルの講座。タグ開発、システム開発分野に興味を持ってもらう	IoT、DX、AI



Group3

<テーマ>
新しい情報発信



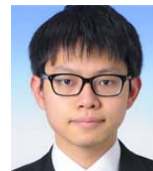
山本 一茂さん
リーダー
サトー



佐久間 卓郎さん
サブリーダー
NECプラットフォームズ



杉延 学さん
日立製作所



高畑 潤さん
リコー



大澤 秀次さん
JAISA
システム部長

〈事務局〉

企画タイトル：移動・体験型ショールーム

企画概要

対象者・属性に合わせたコンテンツの活用・集客

自動認識技術を体験できるショールームを提案する。自動認識技術の普及啓発・発展のために、自動認識を知らない人にも技術を体験してもらい理解を深める。低年齢層も対象として、幼少期に楽しく技術に触れながら、基礎概念を身に付ける。

<コンテンツ>

- ① 移動・体験型ショールーム
トラックの荷台にショールームをつくり、出張先でデモを実施
- ② バーチャルショールーム
ストリートビュー的にバーチャルの自動認識ソリューションを構成

素材：低年齢層向け自動認識の実験動画を制作

教材：RFIDを使った模型組み立てなどの知育玩具

広報：インフルエンサー（タレント、YouTuber）による告知

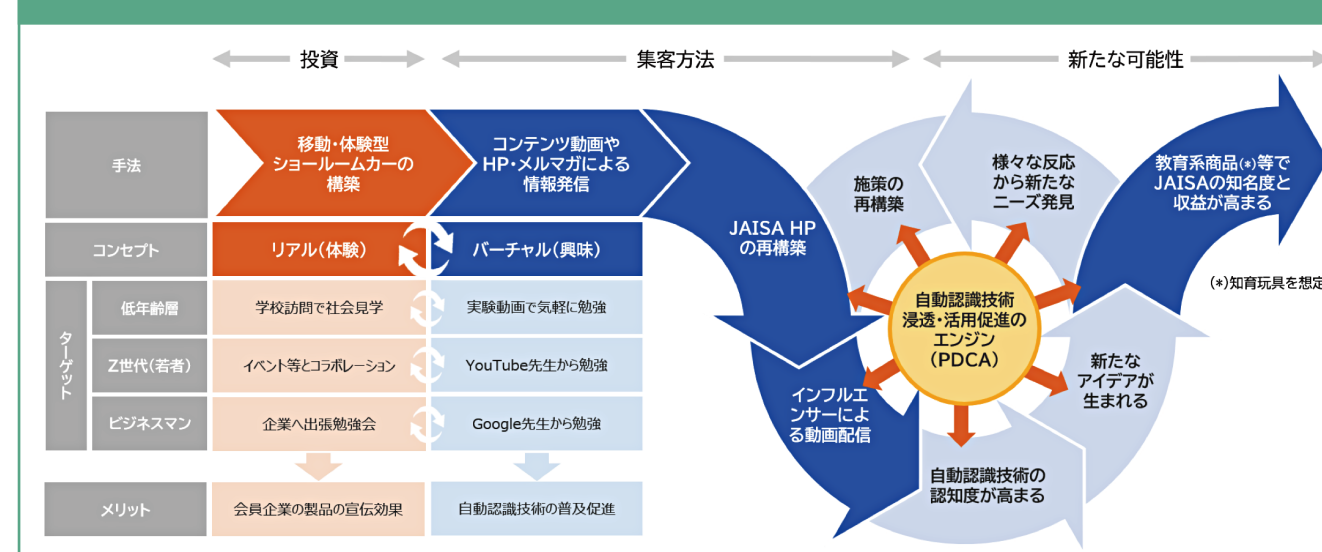
<リーダーとしてグループ活動を振り返って> 山本 一茂 リーダー

同じ自動認識業界で活躍するメンバーが、会社の垣根を超えて未来のAUTO-IDを考え、前向きなディスカッションができたことは、とても刺激的でした。

リアル（体験）とバーチャル（興味）を組み合わせ、自動認識技術をより身近に感じてもらう企画を、我々のグループでは考えました。ビジネスマン、若手（Z世代）、学生と、それぞれの年代で情報収集ソースが違うため、情報発信のアプローチは工夫が必要であることを改めて気づかされました。また、将来を担う若い世代への教育・研修の実施は不可欠であり、柔軟かつスピード感をもって実行ができる「移動・体験型ショールーム」というアイデアを生み出しました。

自動認識技術は、他の技術と組み合わせることで新たな価値を生み出す可能性を秘めています。お困りごとからヒントを得て、便利な仕組みを考えて、未来の世の中の当たり前を創ることができる自動認識技術を、これからも積極的に広めていきたいと思っています。

リアル（体験）とバーチャル（興味）を掛け合わせて、幅広いターゲット層へ自動認識技術をより身近に感じてもらう



Group4

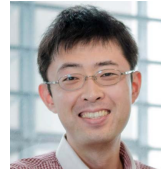
<テーマ>
次世代育成



喜多 信介さん
リーダー
リコー



志村 ちひろさん
サブリーダー
サトー



矢谷 浩司 准教授
東京大学大学院



菊池 翼さん
NEC
プラットフォームズ



梁瀬 蓉平さん
東芝テック



武藤 健さん
JASA
常務理事

<事務局>

企画タイトル: Auto-ID Meet UP

企画概要

若者（特に大学生）に自動認識を知ってもらうための機会を設ける。企業の取組例など身近に多く利用されていることを理解し、技術を体感してもらう。

<目的>

- ・自動認識技術を知り、触れてもらい、業界を知っていただく
- ・社会人になってからユーザーとしてより多く利用してもらう
- ・将来の自動認識基本技術者の有資格者の増加につなげる

<実施案>

会員企業の会議室・ショールームをお借りして、2～3時間のイベントを実施する。

- ・自動認識の技術紹介
- ・パネルディスカッション
- ・ショールームでのデモンストレーション



<リーダーとしてグループ活動を振り返って>

喜多 信介 リーダー

一年前まで「自動認識」という言葉さえ知らなかった私でしたが本プロジェクトを通じて、「自動認識」という枠組みを知り、同時に自動認識技術の将来までも考えることができました。また自身の業務で扱っている技術やサービスが今後どのように社会に役立てられるかを考えるきっかけにもなりました。

今回、グループ4は「次世代育成」という目的で、活動を進めさせていただきました。正直最初はグループリーダーとしてチームをまとめていくのに不安もありましたが、チームメンバーの方々の積極的な意見やサポートもあり、後半は心にゆとりをもって活動できました。至らぬ点もあったかとは思いますが、無事企画の提案までできたことを誇りに思います。また、案出しのためのブレインストーミングやアイデアのまとめ方など、ここで学んだ経験は自らの業務にも繋げていきたいと考えております。

社外の方々と共同プロジェクトは自分自身初めての体験であり、大変良い刺激となりました。最後になりましたがこの場をお借りし、グループメンバーの皆様、本プロジェクトを企画頂いたJAISAの方々及び、本プロジェクトへの参加を快く承認してくださった上司の方々に感謝申し上げます。



ー 12月度委員会 グループ発表 講評 ー

委員の皆様、両先生にはご多忙の中、毎月の打ち合わせにご参加いただき、素晴らしい提案をまとめていただいたことに感謝いたします。従来のターゲット・チャンネルにはない次世代にフォーカスされていたことは驚きでもありました。自動認識による社会課題解決の可能性は広く、また基礎的なプラットフォームがないという問題もあります。皆さんの協力があれば実現可能ではないかと考えます。

企画委員会 委員長 紀伊 智顕

皆さまのご協力に感謝いたします。本委員会は、会員企業若手の方々にベテランも加わり、それぞれ活躍するフィールドが違う

中で忌憚のない意見交換の末に、各グループともユニークな企画を上げていただきました。この活動は今後も継続して、若手層の活発な交流をはかり、業界でさらに活躍されることを期待しています。引き続き、宜しくお願いいたします。

企画委員会 副委員長 大澤 秀次

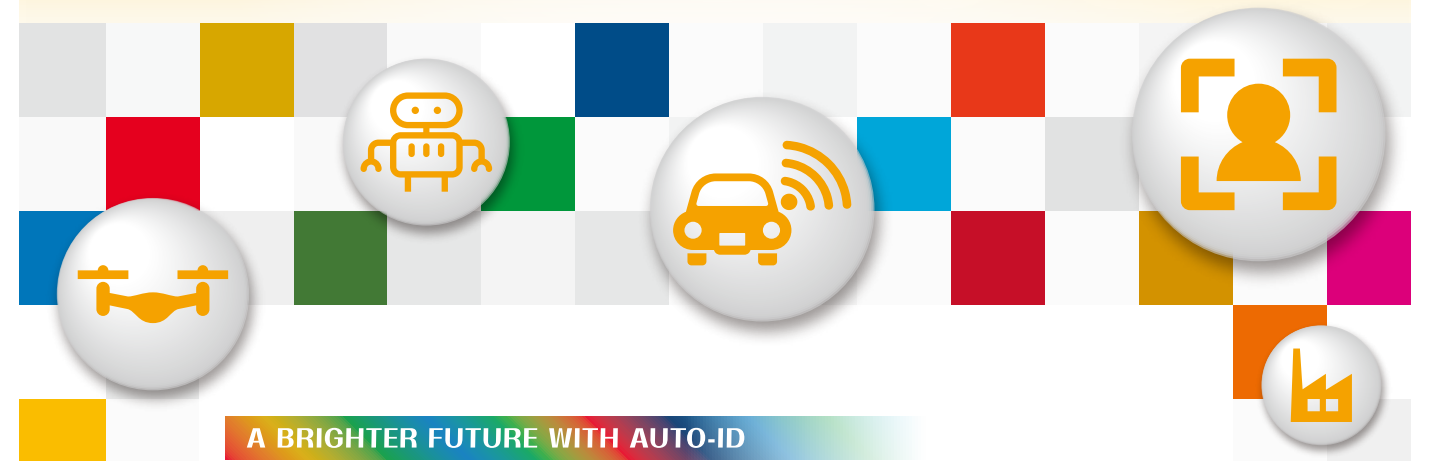
<事務局から>

今回のグループ発表にある企画案を受けて、今後は各グループの提案の内容をより現実的に、実現可能な施策をJAISAの事業として推進していけるよう、本委員会活動を継続してまいります。

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第19回 自動認識総合展

2022.2.24^{T H} - 25^{F R} 10:00 - 17:00
マイドームおおさか 1F展示場

大阪



A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ AUTO-ID

ー SDGsとDXに貢献 ー



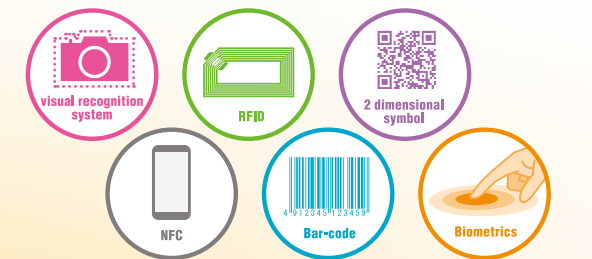
主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業：BTSpice 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com



公式サイトはこちら



展示会事務局（株）シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL: 03-5297-8855 FAX: 03-5294-0909 info@autoid-expo.com



会報 JAISA 第69号 発行所：一般社団法人日本自動認識システム協会 発行人：専務理事 古村 浩志

事務局：〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F TEL: 03-5825-6651 FAX: 03-5825-6653 https://www.jaisa.or.jp/